

平成30年度 群馬県立太田フレックス高等学校
第2回学校評議員会及び学校関係者評価委員会（概要）

実施日時：平成31年1月16日（水）14:00～16:00

1 開会

2 校長挨拶及び学校概要説明

- 学校評議員会及び学校関係者評価委員会は意味のあるものである。今回オープンになるものを学校として高めていきたい。
- フレックス高校基本構想をもとに、多様化する生徒の学びのスイッチを入れる。理念をいかに具現化するか、流行不易ということもあるが、生徒の変化に対応して教職員も変わっていかなければならない。柔軟性を持って対応したい。示唆をいただきたい。
- 何が起るか分からないという、わくわくする日が続いている。
- フレックス発表会では、来場者を多くするという事で今年度卒業生の招待を増やした。外からの変化だけでなく、発表する内部もさらに充実させたい。マイナーチェンジを続けたい。
- 秋・春卒業の生徒の社会への切り口としての進路成果をホワイトボードに掲示してあるので、見てもらいたい。
- 有意義な会としたい。

3 各部状況説明

○ⅠⅡ部

- ・求人状況がよく、生徒の希望が通っている。1社で5名採用されたケースもある。
- ・AO・指定校推薦・一般推薦を活用して進学する生徒が多い。
- ・自己推薦で、群馬大学社会情報学部合格した生徒もいる。
- ・私立大学受験者と群馬大学合格者の2名がセンター試験を受験する。

○Ⅲ部

- ・春卒業の14名中10名が進路決定している。卒業のみが目的の生徒やこれから決定する生徒もいる。進学は専門学校等である。アルバイト先に就職が決定したという生徒もいる。

○ⅠⅡ部・Ⅲ部

- ・バドミントン部・陸上競技部が全国大会に出場した。

○通信制

- ・330名中150名が学習活動している。進路決定者は6名である。すでに働いている生徒、主婦である生徒、体調が悪い生徒等様々な生徒がいる。卒業してから進路を考えるという生徒もいる。これから4年制大学・専門学校を受験する生徒がそれぞれ1名いる。

4 学校行事説明

○定時制

- ・前後期2学期制であり、それぞれ様々な行事があるが、10月のチャレンジウォークと12月のフレックス発表会が大きな行事である。
- ・「こころの教育事業」ではスクールカウンセラーから話をしてもらった。Ⅲ部では、SNS関係のロールプレイも含めて、スクールカウンセラーの支援のもと行った。心に問題を抱えた生徒がおり、スクールカウンセラーの予約が一杯で予約が取れないという状況が続いた。現在は、予約が減り、スクールカウンセラーと担任が連絡を取る余裕が出てきている。
- ・演劇部が特殊詐欺被害防止DVDを作成した。自動車教習所の待合室で放映されているが、今後銀行でも放映される予定である。また、警察のイベントにも参加している。
- ・ホームルーム単位で活動することが少ないなか、チャレンジウォークでは、生徒間のつながりが

深まったり、教員が生徒の新たな側面を発見したり有意義なものである。

- ・フレックス発表会では、入校者の範囲を狭めていたが、今年は、PTAに協力してもらい警備員を配置し、この春の卒業生も招待した。教員も卒業後の生徒の状況の話ができてよかったようである。
- ・Ⅲ部の性・エイズ講演会では、大学生に来てもらいグループワークで未来について考えた。

○通信制

- ・6月に体育行事としてぐんまこどもの国でウォークラリーを行った。人付き合いの苦手な生徒も人との関わりを持つことができた。
- ・9月に生徒生活体験発表大会が行われ6人の生徒が発表し、最優秀賞の生徒が通信関東大会に、優秀賞の生徒が定通県大会に出場した。大会に出たがらない生徒もいるが、出場者は堂々とよい発表をした。
- ・10月には、ぐんま昆虫の森で校外学習を行った。

○共通内容

- ・完全単位制定時制3部構成・通信制は分かりにくいシステムであるため、学校説明会を充実させている。
 - ① 授業見学：5月から1月に実施し、昨年の90人から155人と1.7倍となり、ニーズがある。本校を分からないままに入学し、不適応となり退学に至る生徒が減少するという効果が期待される。
 - ② 中学生向け学校説明会：9月1日に実施し、240名の参加があった。
 - ③ 中学校職員向け学校見学・説明会：9月18日に実施し、16名の参加があった。1名は2年連続の参加で、入学後の生徒の状況確認もあった。それ以外の教員は、昨年度参加していなかった学校の教員であった。
 - ④ オープンスクール：11月10日に実施し、175名の参加があった。個別ブースの説明会では、通信制に関わる質問もあった。フレックス発表会の際の個別ブース説明会でも同様に通信制に関わる質問もあった。
- ・新聞記事として、次のようなものが掲載された。
高校ファイル・演劇部特殊詐欺被害防止DVD・チャレンジウォーク・ゴミレンジャー・フレックス発表会

5 学校評価の説明

○定時制

- ・全体として、そして、特に保護者の肯定的な回答が増加した。
- ・出席率は昨年より3%減少してしまった。他の生徒に引きずられて休んだり、アルバイトの関係で休む生徒が増加した。理由が明確なものへの対応をしたい。
- ・ゼミ活動の満足度が第1回より8%減少した。今後、原因を明らかにして対応したい。また、来年度より、総合的な探究の時間が導入される。探究的活動をどのように実施するのか、ゼミの中に様々な年齢の生徒がいる状況で、どのような活動の積み上げをするのが課題である。
- ・学習に関しては、引き続き、少人数を活かした学習活動、及び、思考力・判断力・表現力に着目した授業や考査を充実させたい。
- ・SNSに関する項目は、今年度新たに挙げたものである。トラブルなしにはならないが、生徒主体で考える機会をさらに増やしたい。
- ・いじめに関しては、教員にいじめの加害者と決めつけられた生徒が自殺したという報道を受け、いじめの被害者・加害者を正確に把握することを文書化した。
- ・チャレンジウォークは、今年度中間歩(チェックポイント間を生徒と一緒に歩き生徒対応する係)の教員を増やすことでよりよい行事となった。さらによりものにしたい。
- ・進路関係は、様々な状況の生徒がいるが、全体指導と個別指導をバランスよく行いたい。
- ・保護者との連携については、第1回点検・評価の際に、保護者への情報提供を増やすと挙げたが

実現できておらず、保護者アンケートでも、情報を求める声があった。保護者のニーズを把握し対応したい。

○通信制

- ・通信の学習の形態は、家庭でのレポート・年16回（2週に1回）のスクーリング・学校行事となっている。330名中150名が学習活動している。どのような指導をすればよいか模索している。まずは、教員間、生徒と教員、家庭と教員の情報共有、そして、それに伴う生徒理解と個別指導やスクールカウンセラーの協力も得た教育相談に力を入れている。

- ・以下の項目において、C評価となった。C評価を付けざるをえなかったものもあるが意図的にC評価としたものもある。

自分の学校が好きである：目標は80%以上であるが、77%という結果であった。

- (1) 学校生活が充実している：第2回点検で70%と満足度が伸びていない。どのようにすればよいかさぐりたい。
 - (2) 学力が向上した：目標は70%以上と抑えていたが、もう少し数値の伸びが必要である。
 - (3) 進路目標の実現に向けて努力している：目標は70%以上である。学力向上・進路目標実現が大きな課題である。色々な背景を持つ生徒、卒業が目標の生徒も多いが、人生設計を具体化させたい。
 - (4) 情報の確認：生徒の情報確認状況はよいが、生徒から保護者に情報が伝わっていないケースもある。伝わる工夫が必要である。
 - (5) フレックス通信：定期的に発行しているが、フレックス通信を読んでいないという回答も目立つ。情報共有を充実させる必要がある。
- ・学力向上、進路実現及び家庭との情報共有を重点的に進めたい。

6 質疑

- [質問] ・通信制は学校への帰属意識を持たせるのは難しいと思うが、行事参加率はどのくらいか？

[回答] ・体育行事、校外学習行事ともに30%くらいであると考えている。

- [質問] ・入学者のミスマッチを防ぐ方法は何か？

[回答] ・受験を決める際に、普段の授業を見てもらうことが一番である。

- [質問] ・SNSの扱いに関する生徒への支援にはどのようなものがあるか？

[回答] ・教員がロールプレイをし、それをもとに生徒が個人・グループで問題点を考える機会を持っている。

- ・SNS自己分析シートにより、項目毎に点数化し、総合点が危険な状態か大丈夫な状態かを認識したうえで、自分のスマホルールを作る活動もある。

- ・県の事業である「SNSに頼らない人間関係づくり」を進めている。

- ・ポスター作成等も行っている。

- ・集会時の呼びかけ等も行っている。

- [質問] ・スクールカウンセラーの数が増えればと思うが。

[回答] ・県費と私費で2名配置している学校もあるが、本校は予算の関係で1名である。

- ・スクールカウンセラーも関わる「こころの教育事業」は県から予算が付き、それにより悩みが解消されよい方向に向かっている生徒もいる。

- [質問] ・バイク通学は許可しているのか？

[回答] ・定時制では、免許の取得は届出制であるが、通学は許可制となっており、高いハードルを設け、保護者にも来校してもらい話をする。

- [質問] ・働き方改革はどうしているか？

[回答] ・勤務時間等記録によると、職員は自己管理のもと適切な勤務時間を保持している。

- ・スクールカウンセラーは、職員の対応もしている。

- ・校長室のドアは開け、生徒や職員が入りやすいようにしている。

- ・風通しの良い職場を作っている。明るく、楽しく、元気よく実践している。
- ・パワーハラスメントにならないように、指導の際には、短く簡潔に伝え、自浄努力を求めている。
- [質問] ・義務校では、ここ数年で大量退職がある。若手・中堅の育成はどのようにしているか？
- [回答] ・地公臨を育てて正規職員となる。新採用となると他校勤務となることが多いが、全県下の捉え指導をしたい。
- ・今まで培ってきたものを次世代に伝えていきたい。
- ・ベテランの教員が、若手の表情を見て対応している。
- ・校務分掌管理がなされており、その総括から若手・中堅職員が学ぶことが多い。

7 意見拝受

- 意欲的に取り組んでいることが分かった。昨年度までやっていたことでよしとせず、常に新しい気持ちを持って取り組んでいる。
- 通信制の活動している生徒が在籍者の半数程度ということで、先生の苦勞がうかがえる。生徒達は様々な事情を持っている。大事なものは、事件が起ってからではなく、どういう状況にあるのかをつかんでおくことである。学校に来られない生徒とのつながりを作る工夫が必要である。
- 主体的・対話的で深い学びの授業において、どういうものを取り入れて行うのか、先生が気持ちを一つにして、何をするかを明確にする。知識・技能をインプットするだけでなくアウトプットもさせる。体験の中で何かを作成させる。ポートフォリオでの蓄積やプレゼンテーションを行う工夫、そして、それに伴う評価、ルーブリックをはじめ生徒主体で考えるものが必要である。
- 働き方改革も考える必要がある。
- 若い世代を育成し支援するのは大変な仕事であるがお願いしたい。
- 中学校はどちらかというと鍋蓋型組織であるが、高校はピラミッド型組織である点はよい。
- 通信制のアンケート結果は、サンプル数が少ないと感じた。その中での評価なので、数値だけでは分からない。回答していない人の評価が高いのではないか。
- 通信制では、情報共有を目指してやっているということだが、それは重要なことである。
- 太田フレックス高校は様々な人に門戸を開いているが、そのことを知らない人が多い。太田フレックス高校のよさや素晴らしさは関わった人にしか分からない。どのように広めればよいのかを考えている。機会がある毎に本校のよさを話している。特色あるシステムがあり、様々な思いを抱える生徒を受け止めている。
- フレックス発表会では、卒業生を呼んで枠を広げたことは良い。枠を広げるということは、よさを広げる機会が増えるということである。卒業生と先生が話している光景、笑顔が見られてよかった。卒業生がフレックス発表会に来るのは、学校が好き、学校がよかったからである。学校がよかったと思う生徒を増やし、その生徒が本校のよさを広報してくれるとよい。
- 先生自身にも発信してもらいたい。新聞を機会ある毎に発行してもらいたい。生徒・保護者でも学校の良さを発信する人が増えればと思う。

8 校長お礼の言葉

- 試行錯誤しながら、本日様々な視点から教えていただいたことを今後のヒントや方向性の材料にしたい。
- 示唆を受け止め、チームとして、職員の育成や生徒の指導に活かしていきたい。
- 今後ともお力添えをいただきたい。

8 閉会